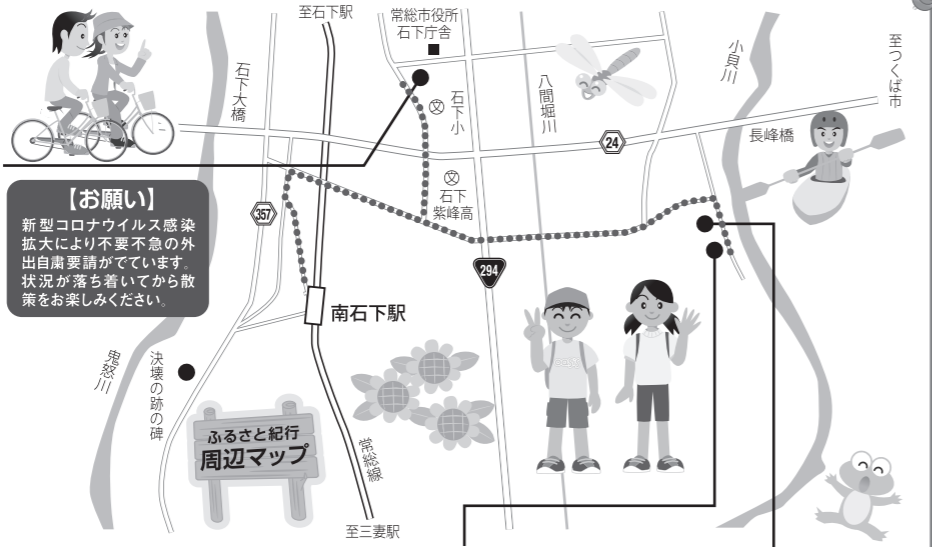


●常総市地域交流センター



石下地区の中心地で偉容を誇る。平成4年にオープンした5重7階の模擬天守で、豊田城と呼ばれている。実際の豊田城は小貝川沿いにあり、天守閣は無かった。



【お願い】  
新型コロナウイルス感染拡大により不要不急の外出自粛要請ができています。状況が落ち着いてから散策をお楽しみください。

●鬼怒川サイクリングロード



令和3年3月に美妻橋右岸下流部から水海道大橋右岸上流部までの工事が完成し、供用を開始した。散策路としても人気。



●「決壊の跡」の碑  
水害の2年後となる平成29年に建立された。石碑は幅約1.8m、高さ約1.1m。裏には当時の被害状況が刻まれている。



●豊田城跡  
桓武平氏一族の豊田氏の居城。後に多賀谷氏の所領となったが関ヶ原の戦いで徳川家康に背き、改易、廃城となった。



●川の一里塚(小貝川)  
小貝川の堤防沿いに高台となって築かれていた。石碑には老子の格言である「上善若水(じょうぜんみずのごとし)」と刻まれている。

●散策コース

石下地区のランドマークといえば、常総市地域交流センターの「豊田城」。石垣の上に5重の天守閣があり、高さは約48.5m。内部には1,100人収容のホールや常総市の歴史や産業などを紹介する展示室がある。また、常総市生まれの作家で、地域の農村の暮らしを描いた代表作『土』で知られる長塚節を紹介するコーナーもある。最上階の展望室からの眺望は素晴らしい。晴れた日には富士山や日光連山を見ることができる。

現代の豊田城を満喫したら、次は豊田城跡のある小貝川を目

指す。豊田城は小貝川の河川改修や耕地整理によって遺構などは残っていないが、天守閣を持たない茅葺きの居館造りで、小貝川の水を利用した堀と土塁で要塞化した城と考えられている。現在は堤防上に石碑が立っており、案内板で往事の様子を伝えている。豊田城跡の隣には川の一里塚がある。高台の上に石碑があり、多くの木々もある公園は、散策の休憩に利用したい。関東鉄道常総線は車内に自転車を持ち込めるサイクルトレイン(9:30~14:30)もあるので、自転車で訪ね、サイクリングロードを楽しむのもいい。また、石下地区には地酒やだんご、若鶏の丸焼きなど、名物も多いので、土産にしてみてもいいだろう。

駅からのふるさと紀行 関東鉄道常総線  
みなみ いし げ  
**南石下駅**  
いし げ み つま  
**石 下 三 妻**  
●次回は9月26日 掲載予定です。 ※イラストはイメージです。



働く人と、世界を走る。  
**ISUZU**  
**茨城いすゞ自動車株式会社**  
本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)  
<https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>



●簡易駅舎は関東・東北豪雨の被害を受け、リニューアルされた



●レトロな駅標



●ホームは1面1線



水害からの復興という活力と災害に備える気持ちを確認するエリア  
関東鉄道常総線南石下駅は昭和6年に開業した1面1線の無人駅。駅の周辺は住宅と畑が混在し、西側は鬼怒川が流れる。東側は国道294号常総バイパス、八間堀川、小貝川が南北を貫く。  
駅の周辺は平成27年9月の関東・東北豪雨で大きな被害を受けた。南石下駅も被災し、それを機に木造の簡易駅舎はリニューアルされた。鬼怒川の堤防が決壊したのは南石下駅の近く。その後、鬼怒川治水の緊急対策工事が進められ、5年あまりを経て堤防整備や河道掘削が完了した。  
新しい堤防にはサイクリングロードが築かれ、筑波山や石下地区にあるお城が望めている。決壊場所には「決壊の跡」の碑が建てられている。関東・東北豪雨の被害を後世に伝えるとともに、人々に対し、災害に備える心構えを説いている。